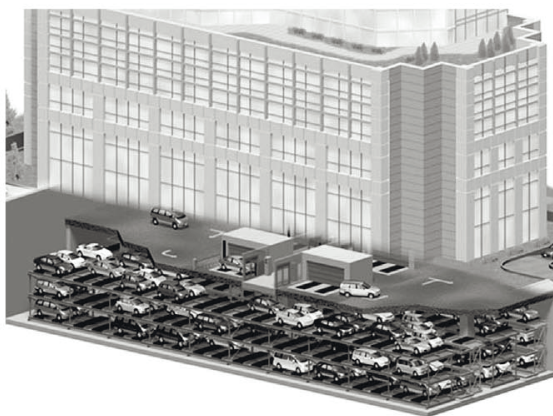


機械式駐車設備事業 海外市場開拓に注力

新 明 和

新明和工業は、機械式駐車設備事業で海外市場の開拓に力を入れる。2024年3月期の「パーキングシステム」セグメントにおける海外売上高は約6%。このうちの大半を「航空旅客搭乗橋」が占め、機械式駐車設備の割合は



新明和の地下式駐車設備（イメージパース）

低い。しかし、少子化が進む日本では市場拡大が見込めなため、海外へと打って出る。まず、台湾で2030年

度に機械式駐車設備事業で売上高約14億円を計画し、東南アジア諸国連合（ASEAN）での事業拡大も目指す。

機械式駐車設備の24年3月期売上高は374億円だった。30年度の売上高目標や海外比率は公表していないが、特に海外で売り上げを伸ばす考え。24年末に台湾で地下式駐車設備を手掛ける嘉鈺機械（桃園市）の株式を現地子会社の台湾新明和工業が追加取得した。

台湾新明和は、台湾で主流の地下式駐車設備で稼ぐ。売り上げ目標の7割強（約10億円）を地下式が占める想定だ。嘉鈺機械株の追加取得で台湾新明和の持ち分比率は21年の10%から60%となり、嘉

鈺機械を含めた地下式のシェアは20%超に高まるという。30年には30%超えを目指す。

今後は嘉鈺機械が持つ平面往復式、水平循環式（パズル式）、水平循環式、箱型循環式といった製品を売り込む。さらに新明和グループの連携を強化し、地下式が主流のASEAN市場での事業拡大も目指す。

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。